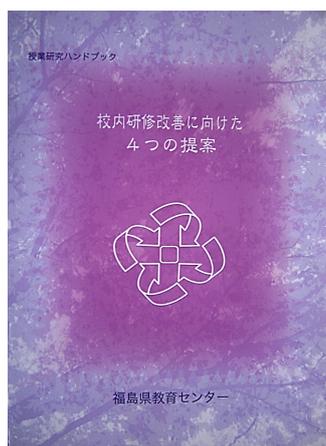


「授業力チェックシート」「授業力分析シート」の手引き

授業力の向上のためには、自分の授業を振り返り（省察）、改善に向けて努力することが大切です。そのためには、めざす授業力を分析的にとらえ、自分の授業課題を明確にして、授業実践に取り組むことが必要になります。

教育センターでは、授業力を下の図のようにとらえました。授業力の4つの要素は、『授業改善ハンドブック 授業をつくる16の視点』を基に設定されています。例えば、「単元構想力」には『授業改善ハンドブック』の4つの視点が対応し、「授業構想力」には『授業改善ハンドブック』の5つの視点が対応するというように、4つの要素には、授業をつくる16の視点がすべて含まれています。



教育センターでは、授業力向上をめざした授業づくりに必要な16の視点に、それぞれ3つずつ診断項目を設け、全部で48項目からなる「授業力チェックシート」(Excel)を作成しました(『授業研究ハンドブック』参照)。個々の教師が授業を振り返り、自己診断によって授業力の現状を把握するためのシートです。5段階の評定尺度で自己診断し、Excelのシートに1から5の数字を入力すると、診断結果は自動的に「授業分析シート」のレーダーチャートに反映されます。2つのシートは、Excelの同じシート上に存在しますので、入力に手間もかからず、大変便利です。

Excelで作成した入力フォームは、2種類あります。「1チーム6人用」と「5チーム30人用」です。教師数が6人以内の学校は「1チーム6人用」が便利です。教師数が7人以上30人以下の学校は「5チーム30人用」活用してください。教育センターでは、チームを効果的に活用した授業研究を推進しています(詳細は、『授業研究ハンドブック』を参照)。1チーム6人以内の教師で編成したチームが、5チームまでの学校で活用できます。



※ Excelで作成した入力フォームは、この手引き同様、福島県教育センターWebサイトからダウンロードできます。

Excelの入力フォーム(複数のシートからなるブック)について説明します。

Excelの入力フォーム「5チーム30人用」の場合で説明します。

※ 1チーム6人以内の教師で編成したチームが、5チームまでの学校で活用できるファイルです。
ブックを開くと、画面下に次のような37の「シート見出し」が出てきます。



「シート見出し」に沿って、説明します。



◆ 「記入例」 「授業力チェックシート」「授業分析シート」の記入の仕方がまとめられています。

◆ 「教師①～⑥」 (チームA所属)
 「教師⑦～⑫」 (チームB所属)
 「教師⑬～⑱」 (チームC所属)
 「教師⑲～⑳」 (チームD所属)
 「教師㉑～㉓」 (チームE所属)

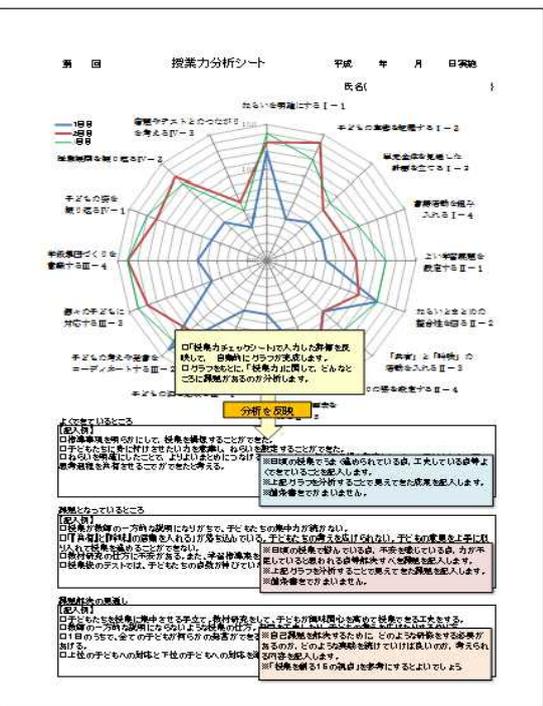
一教師に一枚のシートを割り当てます。最大で30人まで入力できます。個々の教師は「記入例」を基に、割り当てられた自分のシートに診断結果を記入します。
 なお、「シート見出し」の名前変更が可能です。
 ※ 右クリック→「名前の変更」

◆ 「チームA」 チームAに所属する6人(「教師①～⑥」)の診断結果の合計を表示するシートです。個々の教師が入力するたびに、自動的に集計されていきます。
 ※ チームBからチームEまでも同様に集計されます。「シート見出し」の色で、チームと個人が対応するように設定してあります。

◆ 「学校集計」 入力した全教師の診断結果の合計が、自動的に表示されるシートです。

シートを活用して、自分の授業力向上に係る課題を明らかにしましょう。

項目	診断項目	1回目	2回目
1	授業の準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	4
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	4
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	2	5
2	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	5	4
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
3	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
4	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
5	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5
	授業準備(準備時間)が授業開始前に十分な時間を確保できている。	4	5



グラフを基にすると、何に課題があるのか分析しやすくなります。
 課題解決の見通しを立てる際には、『授業改善ハンドブック』の活用を促すようにしよう。
 診断項目は、すべて『授業改善ハンドブック』の活用を促すようにしよう。
 16の視点』と対応しています。

シートを活用して、チームや学校全体の課題を探ることもできます。



赤色「チームA」

・・・ チームAに所属する6人(「教師①～⑥」)の診断結果の合計を表示するシートです。個々の教師が入力するたびに、自動的に集計されていきます。

※ チームBからチームEまでも同様に集計されます。「シート見出し」の色で、チームと個人が対応するように設定してあります。

この「シート見出し」をクリックすると、下の2種類のシートが1ページ目と2ページ目に出てきます。

A B D		E F G H I J K L M N O P Q R S																							
計 3 回		授業力チェックシート																							
		平成 27 年 4 月 10 月 12 月 実施																							
		学校名 ()																							
1	2	3	1回目					2回目					3回目												
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5								
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
初めから教科書通り、教師用指導書通りではなく、自分なりに考え方や活動を考えている	身に付けさせたい力は何か、そのためにどのような授業をするのかを事前に、内容の配列や時間配分を考えている	既習の学習内容や中学校の学習との関連や教材の系統性をふまえている	関連する既習事項の理解度や学習内容への興味・関心の程度を把握している	小学校(中学校)でどのような活動を通して学んできた(学ぶことになる)のか把握している	子どもの学習内容に関連する過去の体験や日常生活での経験を把握している	教材研究を行い、教材の本質や特性をふまえた学習ができるようにしている	ねらいの達成に最もふさわしい活動になるように工夫している	バランスのとれた評価が計画的に行われるようにしている	教科の特質を踏まえた言語活動を位置付けている	必然性のある言語活動がなされるよう、単元の展開を工夫している	「読む」「書く」「聞く」「話す」のそれぞれを意識して位置付けている	追究する価値の高い、本質的な内容につながる課題となるよう興味している	できるだけ教師から与えるのではなく子どもから引き出そうとしている	実物、実演、ICTの使用など追究意欲をわく課題提示の方法を工夫している	ねらいの段階から、学習後に実施された子どもの姿を具体的に想定している	ねらいをもとに、子どもが目的意識や見通しをもつことができるあて(課題)を設定している	「何がわかったか」「何ができるようになったか」が明確になるようなまとめ方をさせている	授業の中で何を重視させるかを意識し、そのことについて一人一人に自分の考えを述べられるように工夫している	共有や興味を効果的に与えるよう、学習形態や話し合いの方法等を工夫している	話し合ったことをもとに各自で考える時間を設けている					

Aチームにおける5段階評価の内訳が表示されます。

I-1の項目における1回目の

診断結果は、1の評価…0人
2の評価…0人
3の評価…1人
4の評価…1人
5の評価…1人

というように、チーム内の内訳を確認することができます。

Aチームの合計が、レーダーチャートとして表れます。

チーム全体としての課題が見えやすくなります。個々のレーダーチャートと関連付けながら、チームとしての課題解決の方向性を見いだしていくとよいでしょう。

※ 個人のシートとチーム合計のシートを基に、チーム研究の方向性を探るワークショップ型協議を行うと、チーム研究の推進が期待できます。実施方法は、『授業研究ハンドブック』P. 41をご参照ください。



黄色「学校集計」

・・・ 入力した全教師の合計が、自動的に表示されるシートです。「シート見出し」をクリックすると、チーム合計シートと同様の2種類のシートが1ページ目と2ページ目に出てきます。学校全体の傾向や変容を確認することができます。



※ 授業力に係る個々の教師の課題と学校の研究主題を結び付けるワークショップ型協議を行うと、学校全体としての課題解決と個々の教師の授業力向上が、一体的に図られます。実施方法は、『授業研究ハンドブック』P. 30、37をご参照ください。